



21:1 あなたの神、主があなたに与えて所有させようとしておられる地で、刺し殺されて野に倒れている人が見つかり、だれが殺したのかわからないときは、

21:2 あなたの長老たちとさばきつかさたちは出て行って、刺し殺された者の回りの町々への距離を測りなさい。

21:3 そして、刺し殺された者に最も近い町がわかれば、その町の長老たちは、まだ使役されず、まだくびきを負って引いたことのない群れのうちの雌の子牛を取り、

21:4 その町の長老たちは、その雌の子牛を、まだ耕されたことも種を蒔かれたこともない、いつも水の流れている谷へ連れて下り、その谷で雌の子牛の首を折りなさい。

21:5 そこでレビ族の祭司たちが進み出なさい。彼らは、あなたの神、主が、ご自身に仕えさせ、また主の御名によって祝福を宣言するために選ばれた者であり、どんな争いも、どんな暴行事件も、彼らの判決によるからである。

21:6 刺し殺された者に最も近い、その町の長老たちはみな、谷で首を折られた雌の子牛の上で手を洗い、

21:7 証言して言いなさい。「私たちの手は、この血を流さず、私たちの目はそれを見なかった。

21:8 主よ。あなたが贖い出された御民イスラエルをお赦しください。罪のない者の血を流す罪を、御民イスラエルのうちに負わせないでください。」彼らは血の罪を赦される。

21:9 あなたは、罪のない者の血を流す罪をあなたがたのうちから除き去らなければならぬ。主が正しいと見られることをあなたは行

なわなければならないからである。

21:10 あなたが敵との戦いに出て、あなたの神、主が、その敵をあなたの手へ渡し、あなたがそれを捕虜として捕えて行くとき、
21:11 その捕虜の中に、姿の美しい女性を見、その女を恋い慕い、妻にめとろうとするなら、

21:12 その女をあなたの家に連れて行きなさい。女は髪をそり、爪を切り、

21:13 捕虜の着物を脱ぎ、あなたの家において、自分の父と母のため、一か月の間、泣き悲しまなければならない。その後、あなたは彼女のところにはいり、彼女の夫とすることができる。彼女はあなたの妻となる。

21:14 もしあなたが彼女を好まなくなったなら、彼女を自由の身にしなさい。決して金で売ってはならない。あなたは、すでに彼女を意のままにしたのであるから、彼女を奴隷として扱ってはならない。

約束の地であっても、事件は起こります。神の民であっても、殺人というような凶悪事件が起こりうるという危機管理意識は必要です。教会にも、またクリスチャンの人生にも起こりうることです。しかも、この規定にあるのは、犯人が分からない場合です。現実世界にも、真実がどうであったか分からないことがあります。よく起こるのは”言った” ”言わない” という争いかもしれません。

そのような場合は神様に任せるといふ信仰が必要な場合があります。自分の正しさを主張する前に、事実を明らかにしようと挑む前に、主にゆだねましょう。人の正義よりも主の御心を優先できるかどうかは大切です。

ここで扱っている事例も、事実が分からない場合です。そのようなときは、民の信仰が大切で、主にゆだねる信仰の表明が大切なのです。

捕虜の女性をめぐった場合の規定についても書かれています。その場合、捕虜であってもその悲しみに寄り添い、人権を大切にするように命じられています。弱い立場の人を大切にしなければなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

